

2016. 7. 22

森づくりガイドラインの策定へ向けて

蔵治光一郎

【背景】

1. 矢作川流域圏内における中規模製材工場の稼働（3万～5万立方メートル／年、2018年度稼働開始予定）→ 皆伐が増加する可能性
2. 豊田市森づくり構想の見直し（2016～17年度）
3. 岡崎市水循環推進協議会緑のダム部会が市長からの諮問に対する答申（2015～16年度）

【ガイドラインに盛り込む内容の案】

1. 矢作川流域圏の森づくりについての基本的な考え方（木材生産と公益的機能のバランス、森林所有者や市民の責務など）
2. 皆伐一斉造林についての考え方（風化花崗岩地帯では、10～20年後に崩壊リスク増大、搬出方法（架線系・道路系）、ニホンジカ食害リスク）
3. 搬出間伐についての考え方（間伐率、搬出方法（架線系・道路系））
4. 伐り置き間伐についての考え方（置き方など）
5. 溪流沿いの人工林についての考え方（流木リスク軽減のための樹木除去など）
6. 尾根筋の人工林についての考え方（針広混交林化など）
7. 広葉樹二次林についての考え方
7. その他